

がん専門医に聞く

シリーズ 第2回

富山労災病院 第二外科部長

よしもと かつひろ
吉本 勝博

－大腸癌について (2)－



今回は前回に引き続き、精密検査で大腸癌が見つかった場合の治療についてお話させていただきます。

大腸癌の治療方法はその進行度（早期であるか進行しているか？転移があるかないか？）により異なります。採血や腹部エコー、CT検査、さらに最近ではPET-CTという全身に存在する様々な癌を見つけることのできる検査を行い進行度を判定します。早期癌であった場合には内視鏡的切除で治療が終了する場合がありますが、内視鏡的切除では癌が残ってしまう場合や進行癌の場合には手術や化学療法（抗癌剤治療）が必要になります。手術はこれまではお腹を大きく切る開腹手術が行われてきましたが、最近では腹腔鏡手術といってお腹に数ヶ所の小さな穴を開け腹腔鏡というカメラを入れて行う手術もできるようになりました。腹腔鏡手術の場合は傷が小さいので術後の痛みが少なく、回復も早いため早期の社会復帰が可能です。症例は限られます。



手術により切除された組織は顕微鏡検査を行い病理診断がなされ最終的な進行度が判定されます。進行度はステージ 0～4 期に分けられ、0期は早期のもの、4期は転移などを認める末期癌になります。0～2期までの癌の場合は手術でほぼ治る可能性が高いのですが、3期あるいは4期の場合には化学療法が必要となります。3期の場合に行われる化学療法は術後補助化学療法といい再発の予防を目的として行いますが、4期の場合はずでに転移があるわけですから治療と延命が目的となります。

当院でも内視鏡治療は可能ですし、やや進行した癌の場合には腹腔鏡手術を行い、より侵襲の低い手術で治療を行うことも可能です。

なにわともあれ、早期発見、早期治療にまさるものはありません。市町村の検診または病院を受診し内視鏡検査を受けられることをお勧めしたいと思います。

ご質問やご相談は地域医療連携室までまた、富山労災病院ホームページもご覧ください

発行：独立行政法人労働者健康福祉機構
富山労災病院 地域医療連携室
〒937-0042 魚津市六郎丸 992

TEL：0765-22-1354
Fax：0120-935-631（フリーダイヤル）

富山労災病院 救急外来からのお知らせ

富山労災病院では終日救急患者の診療を行っております。また、平日の午後 5 時以降および休日は救急外来を開設しており、病状により専門医師が診療いたします。受診される場合 22-1280 までお電話下さい。

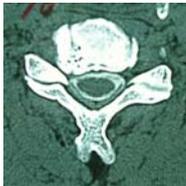


医師紹介コーナー

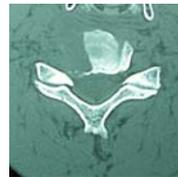


— 第二脳神経外科部長 中島良夫(なかしま よしお)—

今回は、痛みの少ない頸椎の手術法を御紹介いたします。右側のうでから手にかけての痛みとしびれの患者さんです。



手術前
→の部分で神経が圧迫されています



手術後
骨のとげが削られています(→)

前方から神経を圧迫している骨のとげ(骨棘)を削りました。この方は、手術後症状は軽減され、手術後一週間で退院されました。ご高齢の患者さんにも勧められる方法です。

4月1日より放射線治療が始まります。

放射線治療は『手術』・『抗がん剤』と並ぶがん治療の1つで、がん細胞に高エネルギー放射線をあてて腫瘍を小さくさせる治療法です。

治療中は痛みや熱さは感じませんし、治療を行う範囲以外には放射線による影響は生じません。ですから必ず髪の毛が抜けてしまうということもありません。また放射線による家族の方への影響もありません。

放射線治療は体を切らずにがんの治療ができ、体への負担が少ないという長所があり、通院での治療も可能です。



救急外来について



富山労災病院では、市民の皆様の健康を守るために
終日救急患者の診療を行っております。

救急外来 Q&A

Q1:今日は日曜日です。転んで手が痛いのですが、受診しても大丈夫ですか？

A:当直医師の診察後、専門(整形外科)医が必要と判断された場合、担当の専門医が診察に当たります。

Q2:夜、急に心臓が重苦しくなりました。検査や治療ができるのでしょうか？

A:必要時、循環器専門医の検査や治療を受けることができます。治療を介助するスタッフも応援します。

受診される際には、できましたら電話 22-1280 までご連絡ください。

また、保険証、診察券(ありましたら)をご持参下さい。

